「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
1	芸術士派遣事業	芸術士が本市内の公私立の保育所・こども園と、公立幼稚園を分担し、日々の保育及び教育の中で保育士等と連携しながら、子どもたちと造形活動や身体表現等、様々な表現活動をしています。 芸術士は、子どもたちの無限の可能性を信じ、子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出す手助けをし、子どもたちと社会をつなぐ架け橋として子どもたちの創造力の育成に努めています。	4	決算額：37,692千円 予算額：34,877千円	派遣個所数	平成25年度　27か所 平成26年度　35か所 平成27年度　40か所 平成28年度　40か所 平成29年度　40か所 平成30年度　43か所 令和元年度　43か所	100.0%	・様々な表現活動を通して、表現の楽しさ・面白さを体験することで、子どもたちの意欲や好奇心が養われている。 ・子どもの表現活動の「過程」や「個性」を認め合うことで、子どもの自尊感情や自己肯定感が育まれている。 ・保育士等が専門性の高い芸術士とともに協働で教育保育を展開することにより、異業種間での学び合いが教育保育の質の向上に繋がっている。	平成21年から実施してる事業であるが、今後も、芸術士を保育所等へ派遣を行い、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるよう導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。	継続	こども園運営課
2	０才からのコンサート	０歳から３歳くらいまでの子どもとその保護者（妊婦を含む）を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施します。	4,17	決算額：929千円 予算額：1,000千円	観客数	平成25年度　実績なし 平成26年度　463人 平成27年度　602人 平成28年度　559人 平成29年度　641人 平成30年度　361人 令和元年度　299人	82.8%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に予定していた第4回は中止したが、市内全域から会場を選定し、地域の子育て世帯に音楽鑑賞機会を提供した。 また、健康福祉総務課と連携し、規模の大きな会場での公演で「たかまつホッとLINE」登録者の優先申込を実施した。	生の音楽鑑賞機会から遠ざかりがちな子育て世帯を対象とするこのコンサートは、来場者アンケートで多くの方から満足したとの回答を得ているほか、募集開始早々に定員に達するなど人気が高いことから、引き続きコンサートの開催を継続し、より多くの市民が音楽に触れる機会を提供する。今後の開催に当たっては、市民の利便性等も踏まえ、様々な会場を検討する。	継続	文化芸術振興課
3	ものづくりふれあい教室事業	小・中学生を対象に、ものづくりにチャレンジしながら、文化の創造に関心を深め、ものづくりの大切さを体験する機会を提供します。 今後は、工芸の視点も取り入れ、子どもたちに日本の伝統文化の魅力も伝えていきます。	4,17	決算額：480千円 予算額：480千円	参加数	平成25年度　829人 平成26年度　861人 平成27年度　1,223人 平成28年度　1,025人 平成29年度　651人 平成30年度　760人 令和元年度　693人	91.2%	令和元年度は18校において、洋裁部門、和裁部門の5メニューで計19回実施した。	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
4	学校巡回芸術教室・能楽教室事業	小・中学生の情操教育の一助とし、健全育成に資するため、学校巡回形式で、生の優良な芸術や古典芸能を鑑賞し、体験する機会を提供します。 今後は、能楽、歌舞伎等の伝統芸能を身近に鑑賞、体験できる機会の提供（ホール公演、薪能等）についても検討していきます。	4,17	決算額：4,745千円 予算額：4,700千円	【学校巡回芸術教室】 参加者数	平成25年度　8,360人 平成26年度　7,097人 平成27年度　12,283人 平成28年度　9,876人 平成29年度　7,983人 平成30年度　9,147人 令和元年度　10,044人	109.8%	平成30年度は12メニューを20校で、令和元年度は11メニューを21校で実施した。	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課
			4,17	決算額：1,675千円 予算額：1,677千円	【能楽教室事業】 参加者数	平成25年度　2,172人 平成26年度　2,965人 平成27年度　1,555人 平成28年度　3,617人 平成29年度　3,243人 平成30年度　2,650人 令和元年度　2,466人	93.1%	平成27年度以降、能楽・囃子・狂言の３メニューを実施しており、令和元年度の鑑賞児童は６校で2,466人であった。	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課
5	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	高松市において実施される劇団四季「こころの劇場」ミュージカル公演について、本市並びに瀬戸・高松広域連携中枢都市圏域内の児童（小学６年生）を招待します。	4,17	決算額：1,072千円 予算額：1,155千円	鑑賞者数	【観客数／回数】 平成25年度　4,985人／１公演６回 平成26年度　5,323人／１公演６回 平成27年度　5,362人／１公演６回 平成28年度　5,303人／１公演５回 平成29年度　4,997人／１公演５回 平成30年度　5,144人／１公演５回 令和元年度　5,211人／１公演５回	102.9%	『瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（文化芸術鑑賞機会等の提供）』の事業として、令和２年2月19-21日の３日間で、高松・土庄町・小豆島町・三木町・直島町・綾川町・さぬき市内74校の小学６年生及び教員を招待し、『カモメに飛ぶことを教えた猫』の公演を5回実施した。	引き続き、舞台劇の鑑賞をとおして、児童の情操を涵養することを目的に事業を継続実施する。	継続	文化芸術振興課
6	地域密着型トップスポーツチームの活用	カマタマーレ讃岐等、4つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や試合への無料招待等、子どもたちに直接選手等と交流できる機会を提供することで、子どもたちの向上心や創造力の育成を図ります。 平成29年度からは、香川ファイブアローズの選手が施設（市内幼稚園・保育園、小・中学校など）を訪問し、交流を深めることで、広く市民にチームをPRし、ファン層の拡大や青少年の健全育成等を図ることを目的として、新たに「ホームタウン推進事業」を実施しています。さらに、30年度からは、カマタマーレ讃岐を本事業の対象とするなど、今後も、香川県やトップスポーツチームと連携を図りながら、様々な機会を通じ、より多くの子どもたちにトップスポーツチームの選手等と交流できる機会を提供していきます。	3,4,17	決算額：14,487千円 予算額：14,597千円	教室等開催回数	平成25年度　15回 平成26年度　11回 平成27年度　10回 平成28年度　７回 平成29年度　65回 平成30年度　109回 令和元年度　79回	72.5%	選手が施設（市内幼稚園・保育園、小・中学校など）を訪問し、交流を深めることで、広く市民にチームをＰＲし、ファン層の拡大や青少年の健全育成等を図ることを目的として実施する「ホームタウン推進事業」を香川ファイブアローズ、カマタマーレ讃岐が実施。 また、香川オリーブガイナーズにおいてもチーム独自で小学校等を訪問するなど、選手と市民との交流事業が拡大し、青少年の健全育成及び認知度向上につながった。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止になった教室もあった。	地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、市内幼稚園・小中学校等への訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などを実施していく。また、練習・教室使用料補助事業を通じ、地域密着型トップスポーツチームが市内におけるスクール事業の拡大に向けて取り組むなど、今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合え、夢を実現する機会を提供していく。	継続	スポーツ振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
7	高松市美術館こどもアートスペース	平成28年３月のリニューアルに合わせて、高松市美術館内に「こどもアートスペース」を開設しました。“ふらっとアート”では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、未就学児を始め様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを展開します。	4	決算額：205千円 予算額：206千円	こどもアートスペース利用者数	平成28年度　1,776人 平成29年度　1,303人 平成30年度　1,765人 令和元年度　3,417人	193.6%	「こどもアートスペース」の知名度向上とリピーター増加、そして魅力的なプログラムの提供により、利用者数が増加した。	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児をはじめ様々な世代に親しまれる教育普及プログラムを展開していく。特に“ふらっとアート”では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、幅広い世代に楽しんでいただく予定。また、子ども向けの美術図書や絵本を自由に閲覧していただく。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で、３月５日から５月３１日まで臨時休室となったが、その後は３密回避をしながら開室している。	継続	美術館美術課
8	こども未来館わくわく体験事業	子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供することにより、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するため、遊びや科学、アートなどの体験活動を提供するイベントプログラムや親子で参加できる体験イベントなどの様々な魅力ある事業の提供に努めています。	3、4、10、17	決算額：2,178千円 予算額：2,475千円	開館記念事業としての実績： 企画事業入館者数 平成29年度～： こども未来館わくわく体験事業参加者数	平成28年度　6,694人 平成29年度　4,833人 平成30年度　5,550人 令和元年度　4,367人	78.7%	子どもの夢や想像力を育むような魅力あるイベントを提供することにより、子どもを中心とした幅広い世代の人々が来館し、世代間交流の場として、また子どもの遊び・体験・学びの場として寄与した。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、こども未来館わくわく体験事業(春)、遊び体験プログラムの一部は中止した。	新型コロナウイルス感染症の影響でこども未来館わくわく体験事業(夏)は公募を見送り、状況によって小規模の職員によるミニイベントを実施できるか検討中。その後のものについても状況に応じて実施できるか判断することになる。	継続	こども未来館
9	子ども・子育て支援事業	みんなのひろばとプレイルームを子どもと保護者の居場所として提供するとともに、子ども・子育ての相談に対応し、子どもと親がともに育ち合う子育て支援機能とふれあい・交流による多世代交流機能を果たすことを目的として実施します。	3、4、10、17	決算額：19,981千円 予算額：23,031千円	みんなのひろば・プレイルーム利用者数	平成28年度　35,082人 平成29年度　76,597人 平成30年度　80,443人 令和元年度　73,871人	91.8%	みんなのひろば・プレイルームを子どもと保護者がともに育ち合う場として、また保護者同士の交流や情報交換の場として、子どもと保護者の居場所を提供し、子育て支援に寄与した。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、３月５日からみんなのひろば・プレイルームを閉鎖した。	新型コロナウイルス感染症の影響でみんなのひろば・プレイルームを3月5日から閉鎖した。6月3日から定員やタイムスケジュールを変更して再開したが、今後も状況に応じての対応となる。なお、閉鎖中も楽しんでもらえるよう動画配信を行った。	継続	こども未来館
10	こども未来館学習体験事業	市内の小学校４年生（ただし、学校の状況により５年生以上、学校の希望により、中学校の生徒を対象に実施できる。加えて、連携中枢都市圏の小・中学校も受入れ可能。）を対象として、こども未来館の施設を利用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力と探究心を育むことで、健やかな成長に資することを目的に実施します。	3、4、10、17	決算額：32,013千円 予算額：36,483千円	こども未来館学習実施学校数／ 延べ人数	平成28年度　21校／1,737人 平成29年度　54校／4,558人 平成30年度　61校／4,821人 令和元年度　61校／4,861人	学校数　：100.0% 延べ人数：100.8%	こども未来館の施設を活用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力（創造力）と探究心を育むことで、健やかな成長への支援に寄与した。	新型コロナウイルス感染症の影響で1学期に実施予定だった学校は、日程調整を行い、2学期以降に延期した。予定どおり実施できるかは、今後の状況と学校側の判断次第である。	継続	こども未来館

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善 継続、縮小、統合、 完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
11	夢みらい図書館	子ども向けの本を充実させるとともに、おはなし会や読み聞かせ、多様なイベント等を開催するなど、子どもに重点を置いた、子どもも大人も楽しく本に親しむことができる場を提供しています。	4	決算額：3千円 予算額：6千円	子ども対象イベント参加者数	平成28年度　496人 平成29年度　2,555人 平成30年度　2,684人 令和元年度　2,207人	82.2%	子ども向けの図書を充実させるとともに、10代の読書活動を支援するため、「ヤングアダルトコーナー」を新設した。新型コロナウイルスの影響で、令和2年2月下旬からおはなし会等行事は中止となったが、それ以前はおはなし会やこども未来館と連携した星空おはなし会など、子どもたちが読書に親しめるよう様々な行事を実施し、子どもの読書活動の推進に取り組んだ。	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年2月下旬からおはなし会の開催が見送られているが、子ども向けの図書を、より一層充実させるとともに、年齢別（0～12歳）「おすすめの本コーナー」を新たに設置し、より利用しやすくする。また、適正な感染防止策を講じた上で、こども未来館ほか関係課とも連携を図りながら、読書に親しめるようおはなし会や多様なイベントを開催し、子どもの読書活動の推進に取り組む。	継続	中央図書館
12	夏休み親子探検隊リーフレット制作事業	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布する。		決算額：208千円 予算額：0千円	掲載事業数	平成26年度　9 平成27年度　54 平成28年度　82 平成29年度　50 平成30年度　91 令和元年度　95	104.4%	市内小学校の全児童とその保護者を対象に、夏休み期間中に実施する全庁的なイベントを掲載したリーフレットを作成し、学校を通して配布した。	今後は、広報高松や本市ホームページ等、その他の既存媒体を有効活用し、周知を行う。	廃止	産業振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
1	伝統的ものづくり学校巡回教室	市内小・中学校へ伝統工芸の職人を派遣し、ワークショップ等を開催することで、高松の歴史を伴う伝統工芸に関する理解や関心を深めるとともに、情操教育の一助に寄与します。	4,8,9,12,17	決算額：652千円 予算額：675千円	参加者数／回数	平成26年度　404人／14回 平成27年度　360人／14回 平成28年度　280人／6回 平成29年度　138人／4回 平成30年度　299人／3回 令和元年度　268人／3回	参加者数：89.6% 回数：100.0%	高松の歴史を伴う伝統的ものづくりに関する教育を推進し関心を深めるとともに、次世代を担う子どもたちへの伝統的なものづくりへの理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	伝統的ものづくりの職人を希望のあった小・中学校へ派遣し、話を聞いたり、作品や作業風景を見たりする場を設ける。次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業となるよう、継続して実施する。	継続	産業振興課
2	伝統的ものづくり親子体験教室	夏休み期間中に小学生親子を対象として、伝統工芸品の制作体験を実施し、地域資源である伝統工芸について理解と関心を深めます。	4,8,9,12,17	決算額：84千円 予算額：84千円	参加者数／回数	平成26年度　111人／4回 平成27年度　242人／10回 平成28年度　294人／10回 平成29年度　230人／8回 平成30年度　300人／12回 令和元年度　326人／12回	参加者数：108.7% 回数：100.0%	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深めるとともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	継続	産業振興課
3	たかまつ工芸ウィーク	本市の誇る工芸品の展示や販売、工芸を体感する産地ツアーやワークショップなどを市内の店舗や施設で開催する。	4,8,9,12,17	決算額：1,247千円 予算額：1,200千円	参加施設、店舗、イベント数	令和元年度　42か所・イベント	－	高松のサイト（店舗や施設）同士がつながりあい、工芸に特化した週間をつくりあげ、高松を工芸の発信地として広く内外にアピールすることを目的として開催した。	令和2年度も、関係団体等と実行委員会を立ち上げ、市内の店舗や施設同士が繋がりあい、工芸に特化した期間をつくると共に、工芸に携わる事業者・施設を案内するマップを作成配布することで、高松を工芸の発信地として広く内外にPRする。	継続	産業振興課
4	高松盆栽振興事業	平成28年度から高松盆栽の普及及び生産拡大の推進を図るために各種事業を実施します。 ○高松盆栽ＰＲ事業 盆栽大会への出展など、高松盆栽のＰＲを実施 〇盆栽産地振興事業 盆栽産地の振興を図るため、産地の活動を支援 ○盆栽輸出振興事業 盆栽の輸出の拡大を図るため、海外盆栽バイヤーとの商談会の開催及び輸出体制の整備を支援	8,9,11,15	決算額：3,578千円 予算額：7,938千円	商談会等の実施	【平成28年度】〇高松盆栽のPRグッズ等を作成 〇海外盆栽バイヤーとの商談会を実施 【平成29年度】〇平成29年4月にさいたま市で開催された世界盆栽大会に出展し、高松盆栽のPRを実施 【平成30年度】商談会の開催　2回（ベルギー、ドイツ） 【令和元年度】2回（バイヤーの出身国：イタリア、ドイツ）	100.0%	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR・輸出振興を支援するとともに、産地の活動の取組みを支援した。	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR・輸出振興を支援するとともに、産地の活動の取組みを支援する。 （新型コロナウイルス感染症の影響で事業計画については不透明）	継続	農林水産課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
5	高松盆栽の郷推進事業	平成29年度に策定した「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、盆栽産地（鬼無・国分寺地区）の伝統的な盆栽文化の一層の普及・定着による「高松盆栽の郷」の産地そのもののブランド化を図るため、４つの基本方針に基づき香川県と連携しながら総合的な産地振興に取り組んでいきます。 ○国内需要の拡大 新たな需要創出に向けた取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・ＰＲ活動 ○輸出の拡大 輸出量増加のための取組、輸出基盤の強化や販路拡大への取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・ＰＲ活動 ○産地基盤の強化 盆栽後継者の育成のための取組、生産・販売の基盤強化のための取組 ○高松盆栽の郷づくり 「高松盆栽の郷」基本構想に基づくツーリズム等の取組、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設の整備	8,9,11,15	決算額：127,093千円 予算額：30,350千円	【平成29年度】 「高松盆栽の郷」基本構想策定			「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するために各種事業を実施した。 令和２年３月に拠点施設である「高松盆栽の郷」及び研修施設である「（株）盆栽の匠」が国分寺町にオープンした。	「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するために各種事業を実施する。 令和２年度については、拠点施設である「高松盆栽の郷」を核に、PR事業にも重点をおいて支援する。 また、研修施設である「（株）盆栽の匠」において、国外からの研修生も受け入れ、国内外に盆栽の魅力を発信する。 （新型コロナウイルス感染症の影響で事業計画については不透明）	継続	農林水産課
6	むれ源平石あかりロード	地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として始めた事業で、市としては、源平屋島地域活性化事業を通して、後援しています。 「庵治石のあかり」を道路沿いに配置して、源平史跡を巡るイベントで、庵治石とデザイン、史跡を融合した産業観光視点のイベントとして開催されており、期間中の毎週土曜日に限定したライブ等の多彩なイベントを始め、企画展示や観覧参加者が審査するコンテストの実施など、毎年、県内外から多数の参加者を集める事業として注目されています。	8	決算額：1,060千円 予算額：1,060千円	来場者数	平成25年度　75,000人 平成26年度　52,000人 平成27年度　75,000人 平成28年度　80,000人 平成29年度　75,000人 平成30年度　60,000人 令和元年度　70,000人	116.7%	牟礼・庵治地域の石材産業のPRも兼ねて、石あかりのライトアップや企画展、コンサート等を実施した。	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者の安全の確保が困難であるため、開催を中止する。	継続	観光交流課
7	ＡＪＩ　ＰＲＯＪＥＣＴ	地元の石材事業者の加工技術を活用して、暮らしに寄り添う庵治石商品の開発・販路開拓に取り組みます。 石材産地である強みを生かし、地域資源である「庵治石」を素材として、消費者の日常生活に「付加価値」を与える新商品の開発に取り組み、石材産地としてのブランドの再構築を行うことで、地場産業の振興を図ります。	4,8,9,12,17		出荷点数	平成25年度　約500点 平成26年度　約600点 平成27年度　約1,500点 平成28年度　約1,800点 平成29年度　約2,200点 平成30年度　約2,500点 令和元年度　約1,800点	約72.0%	石の世界観、石のある暮らしに共感頂ける店舗にお取り扱い頂くなど、ストーリーを含めた商品の提供にこだわっている。今期は、新作発表を行わず、既存製品の見直しやブラッシュアップに重点を置いた。県内外の催事や商工会等への出店の他、各種新聞・雑誌・テレビ等でのPRを行った。	地場産業振興に繋げる支援事業として、国内外へ新たな商品開発、ブラッシュアップを行いブランド力を高めた新たな企業化展開に必要な整備等もあわせて行い、産地産業振興の役割を担う企業化をすすめる。	継続	―

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
8	盆人プロジェクト	盆栽のキャラクター「盆人」をシンボルに、香川県の盆栽を日本全国のみならず世界へ広めるため活動。地元香川県出身のデザイナー・カメラマン・映像クリエイター・モデル事務所などのさまざまなメンバーで構成。						クラウドファンディングで制作したショートムービー「盆栽deボンジュール」の配信を開始したほかに、[平成]瀬戸内デザインアワード2019において、盆栽プロジェクトが「瀬戸内デザイン賞」を受賞した。	オリンピック・パラリンピック関係のプロジェクトや動画「盆栽deボンジュール」を海外に広めていく手法を検討している。 また、盆栽の新たな商品開発にも注力する予定で、現在も、「盆栽新商品コンテスト」に応募しているところである。 今後もSNSを活用しながら取組を発信していくほか、「盆栽美術館」のある埼玉県大宮市での活動も見据えている。	継続	―
9	漆芸研究所修了作品貸出事業	香川に関係のある県内外の民間企業・団体に対し、漆芸研究所が保有する優れた修了作品を一定期間無償で貸し出し、香川漆芸作品に触れる機会を創出する。	4,8,9,12,17	決算額：167千円 予算額：市拠出無	貸出点数／貸出先数	平成28年度　27点/16か所 平成29年度　39点/18か所 平成30年度　39点/16か所 令和元年度　46点/18か所	貸出点数：117.9% 貸出先数：112.5%	企業や団体に対し、一定期間無料で漆芸研究所保有の修了作品を貸し出し、県内外において優れた香川漆芸作品に触れる機会を創出した。	本事業は、令和元年度をもって終了。 来年度以降は県単独の新規事業として、香川漆芸事業を実施予定。 高松市からの予算拠出はない。	完了	産業振興課
10	ＺＯＫＯＫＵ　ＢＲＡＮＤ推進事業（漆芸アート魅力再発見事業）	優れた技法をもつ香川漆芸の認知度向上と若手漆芸作家支援のため、若手作家の漆芸美術展や、有力ギャラリー等の招聘を行い、香川漆芸の魅力発信とともにブランド化・販路開拓の足がかりとなる事業を実施する。	4,8,9,12,17	決算額：9,100千円 （内、市1,363千円） 予算額：市拠出無 ※9：漆芸研究所修了作品貸出事業費を含む				優れた技法が伝わる「香川漆芸」について、ブランド化の核となるブランドイメージの形成を図るとともに、認知度向上と若手漆芸作家の活動支援のための取り組みを香川県と共に実施した。 デンマークの陶磁器ブランドと香川漆器のコラボレーションを行い、その作品を家庭画報に掲載した。その他、ファーストパトロネージュプログラムへの出展や、台湾との漆芸交流事業を実施した。	本事業は、令和元年度をもって終了。 来年度以降は県単独の新規事業として、香川漆芸事業を実施予定。 高松市からの予算拠出はない。	完了	産業振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
1	人・農地プラン推進事業	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図ります。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図ります。	8,9,11,15	決算額：35,562千円 予算額：51,667千円	人・農地プランの作成地区数	平成25年度　30地区 平成26年度　31地区 平成27年度　32地区 平成28年度　32地区 平成29年度　32地区 平成30年度　32地区 令和元年度　32地区	100.0%	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・活動を支援し、地域の担い手の位置づけや農地集積を推進した。	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図る。 また、国の事業等（農業次世代人材投資資金等）を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図る。	継続	農林水産課
2	たかまつ市場フェスタ事業	高松市民の台所としての卸売市場の役割や流通の仕組みを広く市民に周知・啓発するとともに、生鮮食料品等の流通の円滑化と消費拡大を図るため、市民と卸売市場との交流の機会を確保しています。	2,12,14	決算額：1,500千円 予算額：2,000千円	来場者数	平成25年度　17,000人 平成26年度　17,500人 平成27年度　18,000人 平成28年度　18,500人 平成29年度　19,000人 平成30年度　20,000人 令和元年度　23,000人	115.0%	卸売市場ならではのステージイベント（模擬せり等）や、体験・参加型イベント（魚のつかみ取り）を企画し、市民参加の場を増やすことで、目標来場者数の20,000人を超える23,000人の集客があった。	卸売市場ならではのステージイベント（模擬せり等）や、体験・参加型イベント（魚のつかみ取り）を実施。 例年、来場者アンケートでは高評価を得ており、また、来場者数も年々伸びているため、更なるPRに努めて来場者数の増加につなげる。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催の可否、開催方法について検討を行っている。	継続	市場管理課
3	市場特別開放事業	普段は、許可を受けた人しか入場できない卸売市場で、お買い物をしていただくことにより、高松市民の台所としての卸売市場の役割を知っていただくとともに、市民に親しまれ、市民に開かれた市場づくりを推進しています。	2,12,14	決算額：118千円 予算額：159千円	実施回数／来場者数	平成25年度　5回／6,900人 平成26年度　5回／5,800人 平成27年度　5回／5,000人 平成28年度　5回／5,200人 平成29年度　5回／5,100人 平成30年度　5回／5,300人 令和元年度　4回／4,400人	実施回数：80.0% 来場者数：83.0%	新型コロナウイルス感染症の影響により3月が中止となったが、物販の販売だけではなく、青果を中心として、卸売業者の社員によるワークショップ的な催し、1月には地元コミュニティ協議会による餅つき大会や連合自治会による健康チェックを開催することで、４回で約4,400人の集客があった。	水産物・青果物・花きの販売、卸売業者の社員による子ども向けワークショップに加え、地元コミュニティ協議会、連合自治会とのコラボイベントを実施。 来場者数は伸び悩んでいるが、リピーター率が高く、高松市民や市場近隣の市町民の方々には、ある程度認知されているようだ。県外からの旅行者へのPRも行い、来場者数の増加に努める。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、５月開催は中止とした。９月開催以降についても、開催の可否、開催方法について検討を行っている。	継続	市場管理課
4	市場ＤＥ自由研究事業	小学生及びその保護者を対象に、市場の流通の仕組みや機能を、夏休みにおける自由研究の題材として提供することにより、市場の役割等の知識を深めます。 今後は、市場をより身近に感じていただけるような事業展開とともに、引き続き、市場流通の拡大につながるよう地産地消の題材も取り入れていきます。	2,12,14	決算額：120千円 予算額：120千円	実施回数／参加者数	平成25年度　6回／226人 平成26年度　6回／218人 平成27年度　6回／202人 平成28年度　6回／194人 平成29年度　6回／180人 平成30年度　6回／181人 令和元年度　6回／162人	実施回数：100.0% 参加者数：89.5%	市場内の見学や市場に関する講座の内容をより分かりやすく充実したものにすることで、参加者から高評価を得た。	市場内の見学や市場に関する講義を行い、夏休みの自由研究の題材を提供している。 親子2人1組での応募で、各回15組30人を募集しており、毎回抽選となっている。リピーター率が高く、口コミでの応募が増えている。体験型見学と講義を行っているため、参加者からは、自由研究が完成すると高評価を得ている。現状を維持しつつ、PRにも努める。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催の可否、開催方法について検討を行っている。	継続	市場管理課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
5	さぬきうまいもんプロジェクト	【さぬきダイニング】 　地元食材を使用した幅広い料理を提供するとともに、観光客にも自信をもって勧められる、情報発信力の高いレストランを認定し、メニュー開発やフェア・ワークショップを通じて地元食材等の認知度向上に取り組みます。	12	決算額：12,056千円 予算額：10,367千円	高松市内のさぬきダイニング認定店舗数／県内のさぬきダイニング認定店舗数 （各年度末現在）	平成28年度　市内18店舗／県内27店舗 平成29年度　市内21店舗／県内30店舗 平成30年度　市内20店舗／県内28店舗 令和元年度　市内20店舗／県内28店舗	市内：100.0% 県内：100.0%	認定店が行うフェア・ワークショップ等の活動を支援するとともに、これらの活動を情報発信し、県産食材や香川の食の認知度向上を図った。 認定店舗では、県産食材の認知度向上を図るため、オリーブ牛やオリーブハマチ、旬の県産野菜・果物等を使ったメニュー開発に取り組むとともに、ワークショップ等を開催して、その魅力や素晴らしさを各店舗からPRした。 　また、店舗紹介や取組みをPRリーフレットやホームページで告知するとともに、新聞などのメディアを活用し幅広く情報発信した。 　さらに、インバウンド対策として、4カ国語（英語、繁体、簡体、韓国）でサイトと連動したPRリーフレットを宿泊施設や観光案内所で配布した。	認定店において、メニュー開発やフェア、ワークショップを通じて、県産食材や香川県の認知度向上に取り組む。	継続	―
		【さぬきマルシェinサンポート】 　瀬戸内の景観が一望できるサンポート高松において、対面により、生産者がこだわりの野菜や旬の果物、加工食品を販売するほか、地元シェフが県産食材を使った飲食を提供する欧風産直市の開催を支援し、県産食材の認知度の向上とサンポート高松の賑わいづくりを図ります。	12	決算額：17,500千円 予算額：17,500千円	さぬきマルシェinサンポート開催回数 （各年度末現在）	平成25年度　32回 平成26年度　38回 平成27年度　33回 平成28年度　41回 平成29年度　26回 平成30年度　12回 令和元年度　11回	91.7%	サンポート高松地区において、日曜日に欧風産直市（マルシェ）を開催し、生産者が消費者と対面で、旬の県産野菜・果物や水畜産物の加工品などの販売、県産食材を使った料理を提供することを通じて、香川の食の素晴らしさを伝えるとともに県内での認知度向上・販路拡大図った。	地域の食の素晴らしさをPRするマルシェの開催を支援し、引き続き、県産食材の認知度向上に取り組む。	継続	
6	アスパラ大騒ぎ	地域で生産されるアスパラガスを核に、食や芸術を通して、地産地消の価値や地域活性等、多様な価値を創出、共感できる事業として取り組みます。		決算額：800千円 予算額：1,000千円 （当初予定額だがイベント事業が実施できなかったため大幅に減少予定）	来場者	【来場者数】 平成25年度 平成26年度　カウントなし 平成27年度 平成28年度　約2,700人 平成29年度　約5,700人 平成30年度　約8,800人 平成31年度　約11,000人 R2年度　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	―	来場者及び出店希望者も増加し、定着したイベントとして根付いてきたことは大変うれしく、青空の見える公園で実施できたこと、メディアに取り上げられ支援層も増えてきたが、運営体制には課題が多く、今後は、食や地域を通じた魅力的で質の高い事業内容と、継続実施できる体制整備等の検討を考えたい。	令和2年度は、昨年度に引き続き、中央公園を会場として定着させる方向で開催を予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、中止を決定し、SNS上で、「おうちでアスパラ大騒ぎ」というレシピコンテストと「アスパラ動画アワード」の開催、小学生絵画の紙芝居配信、ポスターの作成を行った。加えて、新型コロナウイルス感染症の関係で、被害を受けているイベント参加農業者・飲食店等の広報支援なども並行して行った。また、昨年度のイベントの様子が全国放送され、県内外から来訪予定や他県からの取材があるなど、手ごたえを感じるとともに、実施体制の整備や新たな社会的な動きを意識したアート作品としてコンテンツとしてアスパラモニュメントの製作、ごみの削減を目的にリユースカップ等のプランを検討していたが、次年度への計画の持ち越しとなった。	継続	―
7	高松ブランド農産物育成支援事業	消費者との地産地消を基本とした共生型農業を推進するため、市内で生産された新鮮で良質な農産物や加工品を「高松産ごじまん品」として市民に提供するとともに、情報発信や農業体験教室、料理教室等の開催を通じて市内農産物の需要拡大と市民の健康で豊かな食生活の実現を図ります。 　今後も、食育・地産地消の推進、農産物のブランド化を推進するため、継続して事業を行っていきます。	8,9,11,15	決算額：2,995千円 予算額：2,000千円	高松産ごじまん品関連イベント ・　たかまつ食と農のフェスタ ・　おにぎり教室（保育園・幼稚園を対象） ・　野菜塾 ・　料理教室 ・　農産物のＰＲ（試食・販売等） など	平成25年度　46回 平成26年度　49回 平成27年度　46回 平成28年度　47回 平成29年度　36回 平成30年度　36回 令和元年度　36回	100.0%	高松市農産物ごじまん品推進協議会と連携し、農産物のPR、地産地消・食育、及び6次産業化・農商工連携の推進を図った。 　なお、新型コロナウイルス感染症の影響から、たかまつ食と農のフェスタを休止した。	高松市農産物ごじまん品推進協議会と連携し、農産物のPR、地産地消・食育、及び6次産業化・農商工連携の推進を図る。 　なお、サンメッセ香川が大規模修繕中のため「たかまつ食と農のフェスタ」は休止する。	縮小	農林水産課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
1	高松市・南昌市友好都市提携３０周年記念事業	令和２年度に南昌市（中華人民共和国）との友好都市提携３０周年を迎えることから、国際交流活動を更に活性化させ、市民の国際感覚の醸成を図るため、記念事業を実施する。	10	予算額：5,631千円	記念事業参加者数				新型コロナウイルス感染症の影響のため、予定していた公式訪問団の相互派遣や記念式典のなどの記念事業については、規模を縮小して実施することとした。	新規	観光交流課
2	観光客受入環境整備事業	観光客等の満足度向上を図るため、無線LAN等の環境整備や観光案内板を整備して情報提供を行うほか、産学官が連携して外国人観光客の受入環境の整備事業に取り組む。	8,14,15,17	決算額：7,294千円 予算額：10,245千円	市内の主な観光施設等利用者数	平成25年度　6,315千人 平成26年度　6,509千人 平成27年度　6,655千人 平成28年度　6,934千人 平成29年度　6,816千人 平成30年度　6,595千人 令和元年度　6,759千人	102.5%	来訪者の滞在中の満足度を向上させるために、引き続き、サンポート高松や高松中央商店街において公衆無線ＬＡＮサービスである「かがわWi-Fi高松」を面的に提供した。併せて、学生ボランティア団体である高松外国人観光客お助け隊を瀬戸内国際芸術祭2019夏会期に合わせて本格始動させ、国際的なイベント開催時やクルーズ船寄港時に観光客等に対して声掛け活動を行い、困りごとの解決を行った。	元年度に本格始動した「高松外国人観光客お助け隊」については、交通の拠点等での声掛け活動に加え、クルーズ船の寄港時や国際的なスポーツ大会等における活動を継続するとともに、活動内容の充実を目指して隊員の増加を図る。 併せて、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として、県内、周辺県地域などを国内観光客を対象として、SNSを活用して本市の魅力を発信する投稿記事をコンテスト形式で競い合わせる「SNSを活用した高松魅力発信キャンペーン」を実施する。	拡充	観光交流課
3	サンポート高松トライアスロン	サンポートエリアの海と本市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手たちが参加できる国内屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」を共催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松のPR等、活力あるまちづくりの促進を図ります。 また、平成29年度からは、オリンピックの選考対象に位置づけられている国際大会「アジアカップ」を同時開催し、市民がトップレベルのスポーツを間近に観戦する機会を提供するとともに、スポーツを通じた国際交流にも取り組んでいます。	1,2,3,4,5,6,10,11,17	決算額：30,000千円 予算額：30,000千円	参加選手数／ ボランティアスタッフ数／観客数	平成25年度　458人／749人／4,500人 平成26年度　514人／676人／12,000人 平成27年度　479人／703人／13,500人 平成28年度　584人／640人／14,800人 平成29年度　687人／1,016人／38,500人 ※平成30年度　-人／-人／-人 ※荒天により大会中止 令和元年度　666人／1,016人／44,200人	114.8%	平成29年のアジアカップの誘致以降、国内外から多くのトップ選手が参加し、国際交流や地域経済の活性化、本市のシティ・プロモーションに繋がる大会となっている。 また、サンポート高松トライアスロン大会の１０周年記念事業として、オリンピアン、パラリンピアン等を招へいし、市内小学校２校でブラインドガイド体験や競技デモンストレーション、トークショーを行い、共生社会への理解、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成にも努めた。	7月4日（土）のNTT ASTC トライアスロンアジアカップ（2020/高松）、サンポート高松キッズトライアスロン大会は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、中止となり、7月5日（日）のサンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～は、9月20日（日）に延期となった。	拡充	スポーツ振興課
4	魅力にあふれ、人が輝く創造都市推進事業	若い世代が自ら企画・発案した事業の実施に補助することで、若い世代の柔軟かつ創造的な取組の実現を支援し、本市の創造性を高める。	11,17	決算額：853千円 予算額：1,507千円	「高松市創造都市推進局フェイスブックページ」いいね！の数	平成26年度　2,726 平成27年度　3,555 平成28年度　4,138 平成29年度　4,388 平成30年度　4,585 令和元年度　4,950	108.0%	「第２次高松市創造都市推進ビジョン」の進行管理を行ったほか、創造都市推進懇談会から提案いただいた事業アイデアのいくつかが実現に至り、本市の事業に若い世代のもつ柔軟かつ創造的な発想を取り入れることができた。	新型コロナウイルス感染症の影響で会議やイベントの開催が見送られているが、オンライン会議での開催・参加する手法も取り入れながら、創造都市推進審議会や創造都市推進懇談会において、本市の活性化に資する御意見をいただきながら、創造都市ネットワーク日本の事業に参加し、本市の取組について積極的にPRする。	継続	産業振興課
5	専門職短期大学設置支援事業	地域の活性化を担う人材の輩出や、若者の県外流出の抑制等を図るため、高松市公共施設再編整備計画（１次）案において、有識者等の意見を反映した総合評価で「２０２２年度末までに売却を含めた廃止を検討する」こととされていた高松テルサの跡施設を有効活用し、学校法人穴吹学園が構想する「専門職短期大学」の設置を支援します。	4,8,17	決算額：104,868千円 予算額：0千円	専門職短期大学入学手続完了者数			施設の外壁改修が完了した。	高松テルサ跡施設について、引き続き、学校法人穴吹学園に貸付する。	継続	産業振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
6	創造支援センター運営事業	本市における特色ある事業の創出及び地域産業の振興に寄与するため、四番丁スクエア内に、創造性に富む発想や独自性のある技術を活用した新規事業者等の活動拠点としてのインキュベーター施設（全６部屋）を設置・運営している。	9	決算額：296千円 予算額：353千円				全６室のうち、新たに４室において新規使用者が決定し、引き続き、創造性に富む発想や独自性のある技術を活用した新規事業者等の活動拠点としての機能を果たしている。	継続して事業を実施する。	継続	産業振興課
7	グリーン・ツーリズム推進事業	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。	8,9,11,15	決算額：0千円 予算額：286千円				市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援した。	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。（令和２年度予算は、HPの内容更新費用のみ）	継続	農林水産課
8	ため池景観整備維持管理事業	ため池景観整備事業等で実施した施設、樹木等の維持管理に関する協定を締結した法人または市長が認める団体に対して補助金を交付し、当該施設等の適正な維持管理を図る	6,9,15	決算額：8,495千円 予算額：8,495千円	地区数／補助金	平成25年度　17地区／7,697,300円 平成26年度　17地区／7,819,500円 平成27年度　17地区／8,269,600円 平成28年度　17地区／8,135,800円 平成29年度　16地区／7,940,600円 平成30年度　16地区／8,252,500円 令和元年度　16地区／8,494,600円	地区数：100.0% 補助金：102.9%	当該施設の景観の維持を行うことにより、来客者及び地域住民の安らぎを与えた。	引き続き、事業実施に係る支援を行い、当該施設等の適正な維持管理を図る。	継続	土地改良課
9	高松城跡（玉藻公園）をいかした観光振興事業	重要文化財の指定を受けた披雲閣を中心とし、高松城跡（玉藻公園）の観光拠点としての知名度向上及び観光客の増加を図るため、バーチャル高松城の活用や和船体験事業等の事業を行うとともに庭園のライトアップ等、ナイト観光を充実させるイベントを実施。	8,14,15,17	決算額：7,098千円 予算額：6,684千円	入園者数	平成25年度玉藻公園入園者数　178,807人 平成26年度玉藻公園入園者数　194,016人 平成27年度玉藻公園入園者数　218,258人 平成28年度玉藻公園入園者数　237,946人 平成29年度玉藻公園入園者数　228,385人 平成30年度玉藻公園入園者数　202,161人 令和元年度玉藻公園入園者数　229,439人	113.5%	瀬戸内国際芸術祭2019や商店街を活用したイベントの実施時期に合わせて夜間ライトアップ、ちょうちんワークショップ等のナイト観光イベントを実施したところ、玉藻公園の入園者数が増加した。	引き続き、高松城鉄砲隊演武、バーチャル高松城、和船体験事業を実施するとともに、宿泊客に高松の夜を楽しんでいただくため、官民連携のナイト観光イベントなどを展開し、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図っていく。	継続	観光交流課
10	屋島山上拠点施設整備事業	屋島の多様な特性・価値を深く知るための機会を提供し、より多くの人に愛着を持ってもらうため、屋島山上に誰もが気軽に立ち寄り、屋島の歴史、文化、自然環境等について学び、交流することができる拠点施設を整備します。	8	決算額：58,035千円 予算額：1,249,411千円	屋島入込客数	平成26年度　511,577人 平成27年度　504,399人 平成28年度　506,682人 平成29年度　498,696人 平成30年度　494,984人 令和元年度　531,485人	107.4%	瀬戸内海国立公園及び史跡天然記念物という特性を生かしながら、屋島全体の活性化を目指すため、平成２５年１月に策定した「屋島活性化基本構想」に基づき、屋島を訪れる観光客のニーズに対応しつつ、新たな価値や魅力を創成する各種取組を展開した。 令和元年度は、屋島山上拠点施設（仮称）の建設工事に着手した。 令和元年度の入込客数は531,485人を記録した。	屋島山上拠点施設（仮称）指定管理者の公募を開始するとともに、建設工事を着実に進めていく。	継続	観光交流課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
11	屋島活性化推進事業	屋島の活性化に向け、屋島の有する特性・価値を将来にわたり継承しつつ、市民を始め、屋島を訪れる人々に広く知ってもらうため、「屋島活性化基本構想」に基づく事業を実施し、屋島を世界に誇れる本市のシンボルとして再生します。 この事業の一つとして、山上を訪れる人々に屋島を知ってもらうため、人が集まり、学び、楽しみ、交流できる拠点となる屋島山上拠点施設を整備します。 また、屋島ドライブウェイの無料化・市道化により、屋島に気軽に訪れることのできる環境づくりが図られていることから、より一層屋島山上への誘客を推進していきます。 さらに、屋嶋城跡城門遺構を整備するとともに平成２８年３月に一般公開を開始し、屋島の歴史の掘りおこしと情報発信を行っています。 平成２９年に完成した屋島レクザムフィールドについては、四国大会等の陸上競技大会が開催可能であり、棒高跳の公認競技が可能な室内競技場を全国で初めて併設しています。	8	決算額：120,614千円 予算額：1,358,674千円 （２か年ともに、屋島山上拠点施設整備、屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～、むれ源平石あかりロードに係る費用を含む）	屋島入込客数	平成26年度　511,577人 平成27年度　504,399人 平成28年度　506,682人 平成29年度　498,696人 平成30年度　494,984人 令和元年度　531,485人	107.4%	屋島関係情報ポータルサイトのリニューアルや芝生公園・多目的広場の整備及び維持・管理の実施などにより、屋島の特性や価値に対する市民の認識が高まり、屋島活性化に向けた機運が向上した。	引き続き、源平屋島地域運営協議会において、源平屋島地域のまつり・各種イベントを補助・共同宣伝することにより、源平屋島地域全体の活性化やにぎわいの創出、誘客の促進に努める。また、バス運行事業者による屋島山上シャトルバス運行事業への補助や屋島関係情報ポータルサイトの運営を行い、源平屋島地域への観光客の誘致を図るとともに、屋島周辺の観光施設への周遊を促す取組みを行いながら、屋島に対する関心を広く醸成する。	継続	観光交流課
12	屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～	「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、「屋島夕夜景フェスタ」の開催期間中のいずれかの金・土曜日に、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	8	決算額：2,380千円 予算額：2,380千円	来場者数	平成26年度　1,450人 平成27年度　1,110人 平成28年度　1,020人 平成29年度　1,280人 平成30年度　1,100人 令和元年度　1,430人	130.0%	「食」と「音楽」によって、屋島山上への誘客を促進する「屋島夕夜景フェスタ」開催期間中の金・土曜日において、著名なミュージシャンによるライブイベントを実施した。	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者の安全の確保が困難であるため、開催を中止する。	継続	観光交流課
13	温泉をいかした塩江地域の観光振興事業	観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に的確に対応し、地域の持つ魅力を向上させて塩江地域の活性化を図るため、塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づき、温泉をいかした塩江地域の観光振興に努めます。	11	決算額：20,479千円 予算額（繰越明許） ：25,516千円	塩江温泉郷観光入込客数	平成25年度　59,392人 平成26年度　64,785人 平成27年度　68,150人 平成28年度　69,039人 平成29年度　70,010人 平成30年度　65,944人 令和元年度　66,726人	101.2%	観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に対応しながら、塩江温泉郷の活性化を図るため、塩江温泉郷を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」に磨き上げるための指針として、平成２９年３月に策定した「塩江温泉郷観光活性化基本構想」に基づき、各種取組を検討・実施した。	塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づく事業の推進を図るとともに、道の駅エリア整備基本計画の策定等に取り組む。	継続	観光交流課
14	誘客促進事業	本市への誘客を促進するため、香川県と連携し、高松空港への直行便が就航している台北、上海、ソウル、香港及び成田を対象に観光キャンペーンなどを実施するほか、多言語対応可能な観光案内所の運営や、クルーズ客船の受入事業を行う。 また、広島市、松山市、岡山市及び本市の４市で構成する「瀬戸内４県都市長会」で観光客誘致事業を実施するとともに、（公財）高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	8	決算額：176,161千円 予算額：180,724千円	観光案内所利用者数（外国人）／ 観光関連施設等利用者数	平成25年度　- 人／6,315千人 平成26年度　- 人／6,509千人 平成27年度　- 人／6,655千人 平成28年度　18,597人／6,934千人 平成29年度　18,313人／6,816千人 平成30年度　23,164人／6,595千人 令和元年度　22,566人／6,570千人	観光案内所利用者数（外国人）：97.4% 観光関連施設等利用者数：99.6%	県と連携し、東アジア４路線の維持を図りながら、引き続き国内線（成田線）の誘客活動を実施する。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行うほか、クルーズ客船等の受入事業を行った。 瀬戸内４県都市長会では、４市を巡る広域周遊旅行の提案や誘客促進に向けたプロモーション等を行う。 （公財）高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	県と連携し、コロナウイルス感染症の収束状況を鑑みながら、運休中のソウル、上海、台湾、香港の東アジア４路線、国内線（成田線）の路線維持を図る。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行うほか、クルーズ客船等の受入事業を行う。 瀬戸内４県都市長会では、欧州をターゲットとした体験プログラムの造成、販売等が出来るサイトの構築を行う。 （公財）高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	継続	観光交流課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
15	さぬき高松まつり	四国の四大祭りの一つとして、また、讃岐路の真夏の夜を彩る祭典として、市民をはじめ多くの観光客にも親しまれており、「ものっそ高松」を合言葉に、「瀬戸の都・高松」にふさわしい一大イベントとして、中央公園・中央通り・サンポート高松をメイン会場に、盛大に開催する。	8	決算額：45,831千円 予算額：44,667千円	入込客数	平成25年度　650,000人 平成26年度　620,000人 平成27年度　650,000人 平成28年度　620,000人 平成29年度　610,000人 平成30年度　580,000人 令和元年度　210,000人	36.2%	台風による強風のため花火大会及び総おどりが中止となったが、サンポートでのイベント、中央公園のステージに多くの市民が参加し、高松の夏を楽しんだ。	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、収束の見通しが立たないこと、参加者や来場者の健康と安全の確保が困難であるため、さぬき高松まつりの全日程を中止する。	継続	観光交流課
16	高松秋のまつり・仏生山大名行列	高松の四季を表すまつりの一つとして、市民をはじめ、多くの観光客にも親しまれるまつりを目指すとともに、中心会場となる高松南部地域の活性化に寄与する。	8	決算額：9,754千円 予算額：9,071千円	入込客数	平成25年度　130,000人 平成26年度　150,000人 平成27年度　145,000人 平成28年度　145,000人 平成29年度　117,000人 平成30年度　155,000人 令和元年度　160,000人	103.2%	10月19日、20日の２日間、高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、大名行列のほか、野外劇場やよろず処、黒門市等さまざまな催しを行った。２日間で160,000人を記録した。	高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、大名行列のほか、野外劇場やよろず処、黒門市等さまざまな催しを検討しているが、参加者や来場者の安全性が確保できない場合は中止する。	継続	観光交流課
17	高松まちかど漫遊帖	本実行委員会において、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」を春と秋の２回計画し、４月頃～6月頃までの期間において春編を、10月頃～12月頃までの期間において秋編を毎年開催している。	8	決算額：2,079千円 予算額：1,965千円	参加者数	【開催回数／延べコース数／延べ参加者数】 平成25年度　2回／44コース／476人 平成26年度　2回／33コース／385人 平成27年度　2回／47コース／562人 平成28年度　2回／47コース／455人 平成29年度　2回／48コース／469人 平成30年度　2回／51コース／500人 令和元年度　２回／62コース／499人	開催回数：100.0% 延べコース数：121.2% 延べ参加者数：99.8%	コースの新設や既存コースのブラッシュアップにより、多くの新規参加者及びリピーターの誘致を行うことが出来た。	春編と秋編の2回、インターネットやSNSと連動した、まち歩きパンフレットを作成する。 また実施の際には「３密」回避の徹底や動画配信サービス等の利用により、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限留意する。	継続	観光交流課
18	ＳＥＴＯＵＣＨＩ ＳＵＭＭＥＲ　ＮＩＧＨＴ　ＦＥＳＴＩＶＡＬ	「アート県・香川」としてのイメージを定着させるとともに、交流人口の拡大を目的として、瀬戸内海を臨むウォーターフロントの特性を生かし、アート色豊かなイベントを開催する	8	決算額：6,111千円 予算額：5,250千円	来場者数	平成26年度　35,000人 平成27年度　52,000人 平成28年度　20,300人 平成29年度　31,250人 平成30年度　32,111人 令和元年度　38,340人	119.4%	大道芸やミュージシャンによるパフォーマンス、県内人気店による食ブース、スペシャルパフォーマー「カンパニー・デ・キダム」による公演等が連日サンポート高松にて催され、多くの来場者で賑わった。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催中止とする。	継続	観光交流課
19	ＭＩＣＥ振興事業	本市が有するＭＩＣＥ開催に必要な機能の更なる充実や有機的な連携を図ることにより、高松ならではのＭＩＣＥ誘致を展開するため、ＭＩＣＥ振興戦略に基づく施策を推進する。	8,17	決算額：31,869千円 予算額：39,040千円	コンベンション開催件数	平成25年度　203件 平成26年度　226件 平成27年度　217件 平成28年度　214件 平成29年度　226件 平成30年度　217件 令和元年度　171件	78.8%	（公財）高松観光コンベンション・ビューローや香川県MICE誘致推進協議会と連携しながら誘致活動を進めた結果、令和3年8月開催予定の1,000人規模の全国大会である「第60回日本SF大会」の四国初開催に向けた本市誘致に成功する等、一定の成果を挙げた。	引き続き、（公財）高松観光コンベンション・ビューローや香川県MICE誘致推進協議会と連携しながら、大規模ＭＩＣＥや政府系国際会議の誘致及び開催支援、関係機関との連携による受入態勢の強化に取り組む。	継続	観光交流課
20	「気持ち高まる、高松。」シティプロモーション事業	高松を知らない層に対して、効果的な情報発信を行うことにより、本市に対するポジティブなイメージの浸透を図り、観光・ＭＩＣＥ誘致のみならず、移住・定住促進、シビックプライド醸成などにつなげる。	8,17	決算額：4,303千円 予算額：5,630千円	サイト訪問件数	平成30年度　63,459件 令和元年度　159,258件	251.0%	瀬戸内国際芸術祭2019の会期に合わせて「エクスペリエンス高松」のトップページに瀬戸芸特集ページを制作し、滞在拠点としての本市の利便性をアピールするとともに、コインロッカーの位置情報等の旅ナカでのお役立ち情報を掲載したところ、サイト訪問件数が飛躍的に増加した。	「エクスペリエンス高松」において本市ならではの魅力的な体験型コンテンツの記事充実を図るとともに、2年度以降大規模なサイト改修を行い、旅ナカでのお役立ち情報の充実も図っていく。	継続	観光交流課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
21	せとしるべ（高松港玉藻防波堤灯台）夜間特別公開	”灯台のまち高松”事業の一つとして、若年層への認知度向上及びメディアの拡散効果を狙って、日中は毎年開催されているものの、夜間は開催されてこなかったせとしるべの特別公開を行う。	8,17	決算額：0円 予算額：0円	高松市創造都市推進局Facebookにおける「灯台」関連発信記事のリーチ数	平成30年度　18,358件 令和元年度　9,996件	54.5%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、令和元年度にはせとしるべの夜間特別公開は実施しなかったが、せとしるべ・男木島灯台・女木島灯台をデザインしたスタンプを制作し、３灯台間の周遊を促し、夜間特別公開時にも実施するスタンプラリーの準備を行った。	新型コロナウイルス感染症の収束状況を考慮しながら、高松海上保安部と連携の上で、引き続き、せとしるべの夜間特別公開を行うとともに、３灯台のスタンプラリーを実施する。	継続	観光交流課
22	瀬戸内国際芸術祭２０１９	文化芸術の振興と、瀬戸内の活性化や地域振興を、世界に向けての情報発信に寄与するため、現代アートの作家や建築家と協働する国際的な芸術祭と位置付けて、香川県・関係市町及び福武財団などとともに開催する瀬戸内国際芸術祭を推進していきます。 今後も市独自の関連事業を積極的に実施し、内陸部への観光客の誘客も図り、本市の活性化につなげていきます。	4,8,17	決算：75,315千円 予算：5,950千円	トータル来場者／ 外国人の割合（アンケート調査）／ 経済波及効果	2010年　938,246人／ 1.1%／　－億円 2013年　1,070,368人／ 2.6%／132億円 2016年　1,040,050人／13.4%／139億円 2019年　1,178,484人／23.6%／180億円	トータル来場者：113.3% 外国人の割合（アンケート調査）：176.1% 経済波及効果：129.4%	実行委員会や市内各島と連携・調整しながら瀬戸内国際芸術祭２０１９開催事業に取り組んだ。	ＡＲＴ　ＳＥＴＯＵＣＨＩとして継続作品が公開される見込みであり、本市として、各事業の広報活動を行うとともに、県や県内市町、市内各島等と連携・調整しながら、より円滑な事業実施体制を構築していく。	継続	文化芸術振興課
23	高松国際ピアノコンクール	音楽芸術の振興と国際的な文化交流を図ることにより、地域に根ざした文化芸術の創造と振興に寄与することを目的として、民間主導により行われる国際的なピアノコンクールの開催を支援します。 第3回高松国際ピアノコンクール（平成25年度開催）の翌年度からは、同コンクール組織委員会の実施事業以外に、本市と組織委員会が連携した取組として、学校訪問リサイタル※、コンクール審査員による演奏会や公開レッスンを実施し、今後は、平成３０年の第４回開催を契機に本市の音楽文化の交流の場を広げるとともに、その発展を目指していきます。	4,8,17	決算：2,540千円 予算：2,800千円	大会参加人数／観客数	平成18年　306人／11,250人 平成22年　243人／7,550人 平成26年　239人／7,180人 平成30年　332人／10,230人	―	高松国際ピアノコンクール推進事業として、以下のメニューを実施した。 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス（公開レッスン） ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	推進事業として、R1年度同様のメニューを実施予定。R3年度の第5回コンクール開催に向けて機運を醸成していく。 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス（公開レッスン） ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	継続	文化芸術振興課
24	かがわ山なみ芸術祭	芸術を軸とした地域の活性化を図るため、県内在住のアーティストと国内外の優れたアーティストが連携し、現代美術作品の展示やワークショップを実施します。地域の歴史文化や風土を作品制作における重要なテーマとし、そこでしか見ることができないアートイベントを目指します。	4,17	決算：1,900千円 予算：0千円	来場者数	2016 ■来場者数（高松市エリア） 瓦町ＦＬＡＧ（プレイベント）　700人 塩江町　2,826人 2019 ■会期（塩江エリア） 9月27日（金）～10月20日（日） ■会場（塩江エリア） 塩江美術館・モモの広場、大滝山県民いこいの森、大屋敷地区、西照神社、ホテルセカンドステージ ■来場者数（塩江エリア） 962人　※塩江美術館のみ	―	瀬戸内国際芸術祭2019秋会期の開幕に合わせ、塩江エリアにおける芸術祭を開催できるよう、ＮＰＯ法人かがわものづくり学校等と連携して取り組んだ。	実施予定なし（瀬戸芸開催年度のみ）	継続	文化芸術振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
25	まちなかパフォーマンス事業 ・TAKAMATSU MUSIC BLUE FES ・サンポートオータムジャム ・高松フラストリート ・街クラシックin高松 ・たかまつ大道芸フェスタ	市民の文化芸術への関心を高めるとともに、まちかどに芸術のあふれる「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、サンポート高松や商店街等で、アートに関連した各種イベントを実施します。 今後は、音楽やパフォーマンス等を通して、市民や観光客が、中心市街地において文化芸術を気軽に楽しめる空間づくりを推進します。	4,17	決算：3,500千円 予算：3,500千円	【TAKAMATSU MUSIC BLUE FES】観客数 （平成25年、26年は街角に音楽をフェスティバル）	平成25年度　6,850人 平成26年度　7,610人 平成27年度　20,200人 平成28年度　26,370人 平成29年度　26,370人 平成30年度　26,900人 令和元年度　33,000人	122.7%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として５事業を実施しており、R1は、その一つとして高松ミュージックブルーフェス2019（5/4～5）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術に触れる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。 なお、５月４日・５日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により１０月に延期している。	継続	文化芸術振興課
			4,17	決算：1,000千円 予算：1,250千円	【サンポートオータムジャム】観客数 （平成25年度、26年度はワールドダンスフェスティバル）	平成25年度　3,100人 平成26年度　650人 平成27年度　3,800人 平成28年度　1,500人 平成29年度　1,600人 平成30年度　1,600人 令和元年度　1,700人	106.3%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として５事業を実施しており、、R1は、その一つとしてサンポートオータムジャム（11/4）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術に触れる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			4,17	決算：500千円 予算：750千円	【高松フラストリート】観客数	平成25年度　6,800人 平成26年度　7,800人 平成27年度　8,600人 平成28年度　9,500人 平成29年度　10,500人 平成30年度　12,600人 令和元年度　14,200人	112.7%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として５事業を実施しており、、R1は、その一つとして高松フラストリート（8/25）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術に触れる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			4,17	決算：1,000千円 予算：500千円	【街クラシックin高松】観客数	平成25年度　6,470人 平成26年度　1,630人 平成27年度　3,300人 平成28年度　1,670人 平成29年度　1,020人 平成30年度　1,650人 令和元年度　2,400人	145.5%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として５事業を実施しており、、R1は、その一つとして街クラシックin高松（9/21～29の土日祝日）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術に触れる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			4,17	決算：4,000千円 予算：4,000千円	【たかまつ大道芸フェスタ】観客数	平成25年度　27,600人 平成26年度　38,000人 平成27年度　46,600人 平成28年度　54,500人 平成29年度　62,250人 平成30年度　66,060人 令和元年度　73,470人	111.2%	毎年、商店街・サンポート高松等において「まちなかパフォーマンス事業」として５事業を実施しており、R1は、その一つとして、たかまつ大道芸フェスタ（10/5～6）を実施した。前年度実績値より多くの観覧者を集め、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術に触れる機会の提供を行った。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
26	アーティスト・イン・レジデンス事業	（高松アーティスト・イン・レジデンス） 高松市内の活用されていない資源（例えば、空き家、廃校、商店街の空き店舗等）を活用し、国内外から招へいしたアーティストが一定期間滞在し、地域とのつながりの中で作品制作を行うことで、地域との協働が生まれ、地域に賑わいをもたらすとともに、アートの普及や若手アーティスト等の育成にもつなげます。	4,17	決算：0千円 予算：3,013千円	応募件数・実施事業数	平成27年度　応募17件、実施3件 平成28年度　応募40件、実施3件 平成29年度　応募15件、実施3件 平成30年度　応募27件、実施2件 令和元年度　実施なし	―	瀬戸内国際芸術祭の開催年度を除いて実施することとしたため、令和元年度は実施しなかった。	平成30年度に続き3事業程度を実施することとし、公募に当たっては、従来の選考方法を検証し、適宜見直しを行う。	継続	文化芸術振興課
		（大島アーティスト・イン・レジデンス） 県内外の小学生から中学生までの子どもたちが参加し、大島に宿泊するサマーキャンプを実施します。入所者との交流によりハンセン病の歴史を学び、歴史的遺産の伝承に資するとともに、大島の自然、瀬戸内国際芸術祭の作品鑑賞、アーティストによるワークショップ体験を通じ、大島の魅力を伝え、将来にわたる島の振興を図ります。	4,17	決算：2,000千円 予算：2,000千円	参加児童・生徒数	平成27年度　32人 平成28年度　22人 平成29年度　25人 平成30年度　21人 令和元年度　25人	119.0%	例年同様、夏休みに子どもサマーキャンプを実施した。参加児童は、会場施設である国立療養所大島青松園が取り組む島のジオラマ作りに欠かせない松づくりを体験するなど、園との円滑な連携のもとで事業を実施でき、翌年の瀬戸内国際芸術祭の開催に向けても良い関係構築ができた。	長期的な大島の振興につながる交流促進の取組みとして、引き続き実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年のサマーキャンプの実施は取りやめ、別の形態を検討している。	継続	文化芸術振興課
27	高松市文化芸術ホール改修事業	高松市文化芸術ホールは平成30年度で開館から14年が経過し、音響・照明・舞台設備等、更新が必要となるとともに、ホールのつり天井は既存不適格建築物として改修等の対応が必要になっています。そのため、更新・改修に係る工法・範囲等の調査検討の上、効率的な更新改修計画に基づき実施設計し、休館期間を設けて全面的に更新・改修を行います。	4,17	決算：113,112千円 予算：101,640千円	設備更新・建物改修に係る進捗率	平成30年度　30% 令和元年度　35%	105.0%	平成30年7月から令和元年7月までの間、工法検討業務委託を実施し、ホールの実情に合った改修方法を検討した。 改修の範囲及び方法、それに伴う予算規模に係る政策会議の審議を経て、令和2年2月から実施設計業務を行っている。	工事コストの最適化を念頭に置きながら、実施設計業務委託を実施する。	継続	文化芸術振興課
28	高松城跡等整備事業	城下町高松のシンボルとなる特徴的な城郭を後世まで守り伝えるため、史跡高松城跡保存整備基本計画に基づき、石垣や披雲閣など各施設の保存修理や桜御門の復元に努める。また、天守の復元に向けて資料調査を行う。	4	決算額：122,014千円 予算額：231,728千円	玉藻公園入園者数	平成25年度　178,776人 平成26年度　194,026人 平成27年度　218,264人 平成28年度　238,146人 平成29年度　228,385人 平成30年度　202,161人 令和元年度　229,439人	113.5%	史跡高松城保存活用計画の作成及び桜御門復元整備工事に着手した。また、披雲閣の耐震補強工事に向け、槙の間・松の間の耐震診断を行うとともに、蘇鉄の間の補強工事の実施設計を行った。	史跡高松城跡保存活用計画の作成を継続する。桜御門復元整備工事を実施する。披雲閣蘇鉄の間の耐震補強工事を実施する。	継続	文化財課
29	文化財保存活用推進事業	市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	4	決算額：17,426千円 予算額：19,390千円				重要文化財小比賀家住宅土塀修理事業等に助成するなど、文化財管理及び保存伝承活動等に要する経費の一部助成を行うとともに、史跡地の除草等を行い文化財の保存・管理に努めた。また、ふるさと探訪を年９回開催するなど、文化財の公開・活用に努めた。	引き続き、市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	継続	文化財課
30	中国・四国パラ陸上競技大会	平成29年４月の屋島レクザムフィールドのオープンに伴い、７月に同会場にて四国で初開催し、今後、令和元年、令和2年の２年連続で開催します。 また、大会前日にはパラリンピアンとの交流事業、義足体験授業を実施するほか、大会当日も障がい者スポーツ体験を実施し、障がい者スポーツの推進に努めます。	3,4,10,17	決算額：200千円 予算額：200千円	大会参加人数	平成29年度　112人 平成30年度　未開催 令和元年度　105人	93.8%	ホストタウン、共生社会ホストタウンの相手地域である台湾パラ陸上選手を招待選手として大会に招へいしたほか、大会前日には、国内パラリンピアン等が市内１０小学校を訪問し、義足体験授業やレーサー試乗体験を開催した。大会当日には、東京2020マスコットとの記念撮影やオリパラ競技体験ブースを開設し、障がい者スポーツの推進、東京大会の機運醸成にも努めた。	6月27日（土）の中国・四国パラ陸上競技大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。 また、6月26日に予定していた、市内小学校での交流事業や大会当日の関連イベントも中止となった。	継続	スポーツ振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
31	障がい者スポーツ推進事業	障がい者スポーツの推進を図るため、本市スポーツ施設における環境整備や障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者スポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組みます。	3,4,10,17	決算額：1,539千円 予算額：2,428千円				2019世界パラ陸上競技選手権大会日本代表合宿開催に併せ、市内小学校、環瀬戸内海圏中枢連携都市の中学校で交流事業を行った。また、「高松スポーツ健康感謝祭2020」では、障がい者を対象に、カヌー、SUP体験のほか、パラサイクリング体験を開催し、障がい者スポーツの推進に努めた。	2021年のジャパンパラ陸上競技大会開催に向けての準備を行う。 また、市民の障がい者スポーツへの興味関心を高めていただくため、パラアスリートの周知広報事業や、スポーツ推進委員等と協力して各地域において体験等を実施する。	継続	スポーツ振興課
32	トリムの祭典	昭和54年度から、毎年体育の日に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントとして開催しています。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨーガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施しています。	1,2,3,4,5,6,10,11,17	決算額：2,000千円 予算額：2,000千円	参加者数	平成25年度　5,000人 平成26年度　中止 平成27年度　6,000人 平成28年度　6,000人 平成29年度　6,000人 平成30年度　6,000人 令和元年度　6,000人	100.0%	関係団体と連携し、ニュースポーツ体験・健康チェックコーナー・ヨーガやフォークダンス等のステージイベント・ご当地キャラクターショー・ウォーキング・サイクリング・ちびっこ鬼ヶ島探検などを実施し、市民の健康増進、コミュニティの醸成に大きく寄与した。	10月11日に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催します。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨーガや太極拳等のステージイベントなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施する予定です。	継続	スポーツ振興課
33	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業 （事前合宿誘致・実施）	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピアン・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。	3,4,10,17	決算額：432千円 予算額：6,252千円				中国四国パラ陸上競技大会に併せ、中華台北パラリンピック委員会を招へいし、東京2020パラリンピック競技大会事前合宿調印式を執り行ったほか、強化合宿や市内２小学校での交流事業、国内パラリンピアン等との交流も行った。	新型コロナウイルス感染症拡大を受け、台湾パラ陸上代表選手団の事前合宿は、延期となった。日程未定。また、台湾オリ自転車代表選手団の事前合宿は未定である。	継続	スポーツ振興課
34	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業 （交流事業）	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピアン・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。	3,4,10,17	決算額：1,651千円 予算額：2,900千円				中国四国パラ陸上競技大会では、永尾嘉章氏ほか5名のパラリンピアン、サンポート高松トライアスロン10周年記念事業では、庭田清美氏、円尾敦子氏、投擲合宿交流事業では、ドイツのビルギットコーバー氏、タグラグビー教室では谷口令子氏、高松ファミリー＆クウォーターマラソンでは土佐礼子氏、JA全農WCBF少年野球教室では田中幸雄氏、高松スポーツ健康感謝祭では、池谷幸雄氏、寺川綾氏、中村美里氏を招聘し、各種スポーツイベントを開催し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成に努めた。	オリンピアン、パラリンピアンとの交流事業を実施し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成に努める。 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のパブリックビューイングは延期となった。	継続	スポーツ振興課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
35	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業 （聖火リレー事業）	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピアン・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。	3,4,10,17	決算額：4,400千円 予算額：19,600千円				中国四国パラ陸上競技大会で東京2020マスコットの記念撮影ブースのほか、台湾夜市、高松ファミリー＆クウォーターマラソンで聖火リレーパネルの展示、高松スポーツ健康感謝祭では、聖火リレートーチの展示・記念撮影ブースを開設した。	新型コロナウイルス感染症拡大を受け、4月19日の聖火リレー・ミニセレブレーション・セレブレーション、パラ聖火フェスティバルが延期となった。日程未定。	継続	スポーツ振興課
36	高松市美術館サポートショップ事業	会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券（年間パスポート）を提示すると、参加店舗で割引などの特典を受けることができる。また、各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を設置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入し、商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。	4	決算額：159千円 予算額：195千円	【参加店舗数】	【参加店舗数】 平成24年度39店 平成25年度53店 平成26年度69店 平成27年度119店 平成28年度147店 平成29年度145店 平成30年度134店 平成31年度125店 令和２年度126店	100.8%	参加店舗数の維持・確保が難しく、利用者数が減少している。	引き続き、参加していただいている店舗と協力し、美術館を含め商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へのサポートショップマップ配布を行い、展覧会受付で声かけ等を行う。新型コロナウイルス感染症の影響で、特別展「ニャー！」において臨時休館の期間が生じ、会期の延長で対処したものの、参加店舗に飲食店が多く休業された店舗もあったため、相互利用が難しくなっている。	継続	美術館美術課
37	市民活動センター運営事業	市民と行政が共に考え、共に活動する協働の場として設置している市民活動センターを管理運営し、センター事業を実施します。	11	決算額：21,150千円 予算額：20,941千円	【市民活動センター】総利用者数	平成25年度　3,180人 平成26年度　3,218人 平成27年度　15,429人 平成28年度　19,752人 平成29年度　23,977人 平成30年度　21,311人 令和元年度　23,043人	108.1%	平成30年度に比べると利用人数が2,000人程度増加し、2万人を超える利用者があり、市民活動団体等を支援する中間支援組織として一定効果をあげているほか、IKODE瓦町の賑わい創出にも貢献している。また、センター職員の相談へのサポート能力の充実を図ることで、親しみやすい窓口づくりにも取り組んでいる。	中間支援組織としての機能を充実し、市民活動団体等への活動の更なる支援強化を図るとともに、市民活動団体等と地域との連携強化のためマッチングに積極的に取組む。センター職員のスキルアップを行い、市民に気持ちよく利用してもらえるよう親しみやすい窓口づくりにも努め、相談事業の強化・充実を図る。	継続	男女共同参画・協働推進課
38	障がい者アートリンク事業	芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図るため、希望する障害福祉サービス事業所等へ芸術家を派遣し、創造性の芽を持つ障がい者とアーティストが長期継続的に関わることで生まれる新しい概念をかたちにする創作活動を支援します。	3,4	決算額：12,410千円 予算額：12,435千円	派遣先事業所	平成26年度　6か所 平成27年度　8か所 平成28年度　9か所 平成29年度　10か所 平成30年度　12か所 令和元年度　13か所	108.3%	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業報告展覧会は中止となったが、活動の成果である作品が、中国・四国パラ陸上競技大会観戦用うちわのデザインに起用されたり、本事業参加事業所以外の香川県内の福祉施設においても展示されるなど、作品発表の機会を増やすことができた。	多様な分野のアーティストが参加することで、障がい者の芸術活動の幅を広げるとともに、多くの障がい者が参加できるよう参加事業所の希望を酌み取りながら活動方法を工夫する。新型コロナウイルス感染症の影響により活動制限のかかる中、野外等活動の場の変更や利用者の分散化等、環境の工夫を行っていく。	継続	障がい福祉課
39	高松的台湾夜市　in 北浜アリー	交流協定を締結している台湾基隆市を広くＰＲし、関心を高めてもらうとともに、台湾を相手地域とするホストタウンとして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を醸成することを目的とする。		決算額：2,970千円	来場者数	平成30年度　4,200人 令和元年度　2,900人	69.0%	台風の影響により日程を短縮したものの、多くの来場者に台湾基隆市への関心を高めてもらうとともに、台湾を相手地域とするホストタウンとして、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を醸成することができた。	―	完了	観光交流課

「第２次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R1決算額及び R2予算額	実施実績 （指標）	実施実績 （数値）	実施実績上昇率 （前年度／前々年度）	令和元年度における成果	令和2年度事業内容	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止）	主管課 （関係部署）
40	中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアンを招へいした交流事業	ホストタウンの対象地域である台湾から、中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアンを招へいした交流事業を実施する。パラリンピアン等との交流を通して、市民にパラリンピックや障がい者に関心を持ってもらうきっかけとするほか、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運を醸成する。		決算額：983千円	参加者数	平成30年度　4,280人 令和元年度　　700人※ ※令和元年度は、台風によりトークショーイベントが中止。	16.4%	市民にパラリンピックや障がい者に関心を持ってもらうきっかけになったほか、パラリンピック競技大会直前に本市で事前合宿を実施することについての基本合意書を締結し、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運を高めることができた。	―	完了	観光交流課
41	高松市文化芸術ホール開館１５周年記念事業	高松市文化芸術ホールは、本市の文化芸術の核であるべき施設であり、サンポート地区の賑わい促進に寄与する施設です。当該ホールの役割が重要となる中、15周年記念事業を実施することにより、より多くの市民が集い、楽しめるホールを目指すとともに、教育文化施設、市民文化団体等とも連携し、20周年を見据えた取り組みを図ります。（事業期間：平成30年～31年）		R1決算　5,000千円 （終了）	開館15周年記念事業の来場者数	令和元年度　11,400人	―	記念イベントを開催（4/29）したほか、一部の自主事業を拡充して取り組んだ。	R1で事業完了	完了	文化芸術振興課